

しき態度をする者があるかも知れぬ。しかし我々が茲に問題を提示したことは經歷短き個々黨員の單なる心境變化と全然その出發を異にする。我々も獄中よりかゝる意見を發表する不適當を十分理解して居るが、この上沈黙して居ることは却て我々の義務に反く。我々の見解は從來のそれと對蹠的に異なる外觀が有るが、その自由な内的發展に外ならぬ。何人も我々を自由に批判し、或は贊成し、或は叛徒として鞭つてもよろしい。我々は、我々の見解は、我々の口を通じて出た日本のプロレタリアートの自覺分子の見解だといふ確信を固守する。我々が労働階級に全身を獻ぐる基本態度は過去と同じく少しの變りもない。たとへこのまゝ獄中に終らうともプロレタリア前衛の誇りを以て死に赴くことも變りはない。我々は日本の労働者運動に眞摯の關心をもつ何人もこゝに提示された問題に嚴肅な注意を向けることを要請する。

昭和八年六月八日

市ヶ谷刑務所にて

佐野

鍋山貞親